

2003年度実施研究会報告

以下の研究会が2003年度の活動を終了しました。

■「アフリカ経済実証分析の現状と可能性」研究会

(主査：平野克己)

石川滋一橋大学名誉教授，絵所秀紀法政大学教授，齋藤修一橋大学教授，山野峯GRIPS助教授。多彩な講師をお招きして勉強を重ねてきました。10月の原稿完成に向けて再加速します。(主査)

■「アフリカにおける『人間の安全保障』の射程」研究会 (主査：望月克哉)

「人間の安全保障」概念を中核に据え，予防外交，平和構築といった包括的なトピック，あるいは人道的介入，難民問題などの重要イシューにも目配りをしてきました。それらをアフリカの文脈で，具体的な事例に即して検証することが今後の作業となります。

(主査)

■「アフリカ諸国の『民主化』再考」研究会

(主査：津田みわ)

幹事：佐藤章 委員：遠藤貢(東京大学助教授)，落合雄彦(龍谷大学助教授)，高根務

既存民主化論のオルタナを模索し，1990年代以降の政治変化を追いつつ現代アフリカの民主化に関する議論のレビューを続けました。成果は調査研究報告書として近刊の予定です。(主査)

講演会報告

2003年度10月から2004年3月までに以下の講演会を実施しました。

■平野克己「アフリカの貧困と闘うために：日本の経験」アジア経済研究所・JICA 共同公開講座「援助研究：日本型貧困削減アプローチは可能か」(2003年10月8日，JICA 国際総合研修所)

「収獲通減農業がもたらす低成長にアフリカの貧困の根元を見出せる」との考えから，日本がどのようにしてこの成長制約を克服したかを紹介して，アフリカ開発の在り方を論じました。当研究所の佐藤寛氏が企画したJICA初の有料連続講座の一環。(平野)

■牧野久美子「南アフリカの HIV/AIDS と貧困」アジア研フォーラム，2003年12月3日

南アフリカには一国としては世界最多の約500万人のHIV感染者があり，その大部分は貧困層です。本講演では，貧困層向けのエイズ治療体制整備という課題に焦点を当て，政府と市民社会組織の動向について解説しました。(牧野)

■児玉由佳「日本とコーヒーと途上国(II)：コーヒーの原産地エチオピアを訪ねて」途上国理解市民フォーラム第2回，2004年2月20日

エチオピアの社会・経済におけるコーヒーの役割について解説しました。特に流通面に重点をおき，各流通段階に参加するさまざまなアクターが流通経路の構築にどのように寄与しているのかを，講演者の調査地での結果を踏まえて紹介しました。(児玉)

受賞報告

平野克己『図説アフリカ経済』(日本評論社，2002年)が第7回国際開発研究大来賞を受賞しました。授賞式は2月6日，FASIDにて行われました。

アフリカ関連のアジ研刊行物

本誌第32号にて，2000年中に出版したアフリカ関連アジ研刊行物(『アジ研ワールド・トレンド』については2000年1月から2001年3月まで)をご紹介します。今回は，それ以降2003年12月までの刊行物を紹介します。

[研究双書]

■平野克己編『アフリカ比較研究—諸学の挑戦—』No.512，2001年

総論—アフリカを比較する(平野克己) ◆アフリカ経済研究の特徴と課題(絵所秀紀) ◆アフリカ農業の国際比較—成長しない経済(平野克己) ◆南アフリカにおける「ビジネスグループ」の比較分析(西浦昭雄) ◆アフリカをとりまく「市民社会」概念・言説の現在—その位置と射程(遠藤貢) ◆小火器拡散問題と平和構築—南アフリカの取り組み(佐藤誠) ◆アフリカにおける宗教と政治—研究動向と比較への展望(牧野久美子) ◆アフリカ史・世界史・比較史(永原陽子) ◆仏領西アフリカの記憶—ダン語およびフランス語によるインタビュー記録(真島一郎)

■高根務編『アフリカの政治経済変動と農村社会』

No.513, 2001年

序章—現代アフリカと農村社会(高根務) ◆ルワンダの政治変動と土地問題(武内進一) ◆南アフリカ白人農場地帯における土地改革(佐藤千鶴子) ◆ケニアの複数政党制化と農村社会(津田みわ) ◆コートデヴィワールにおける換金作物生産と一党制成立過程—PDCIの組織化戦略と「脱プランター化」(佐藤章) ◆自由化のなかの小農輸出作物生産—ガーナにおける輸出用生パイナップルの事例から(高根務) ◆ザンビアにおける農業政策の変化とベンバ農村(杉山祐子) ◆エチオピアの経済自由化政策と社会変容—皮流通の事例(児玉由佳) ◆タンザニアの経済自由化と農村零細企業の形成過程—メル人社会における乳牛飼養と牛乳家内加工(上田元)

■平野克己編『アフリカ経済学宣言』No.529, 2003年

総論—アフリカ経済学宣言(平野克己) ◆アフリカ諸国の経済成長(福西隆弘・山形辰史) ◆アフリカにおける開発ミクロ経済研究の成果—農家および製造業企業の生産行動(福西隆弘) ◆アフリカの人間開発—評価と政策(野上裕生) ◆アフリカ経済と「リカードの罠」(平野克己) ◆アフリカ経済と共同体—赤羽理論の再検討(峯陽一) ◆アフリカ国家論と経済開発政策—新政治経済学の再検討(高橋基樹) ◆債務削減の経済学(中村享) ◆出稼ぎ労働の経済学—南アフリカ共和国の事例(赤林英夫) ◆ファミリービジネスとガバナンス—南アフリカ共和国の事例(西浦昭雄) ◆HIV/エイズ, 結核, マラリアの予防薬・治療薬開発—現状の経済学的評価(山形辰史)

■高根務編『アフリカとアジアの農産物流通』No.530, 2003年

アフリカとアジアの農産物流通(高根務) ◆中国における食糧流通政策の変遷と農家経営への影響(寶劍久俊) ◆ザンビアにおける自由化後のトウモロコシ流通と価格(児玉谷史朗) ◆ベトナムのコメ流通—流通構造からみたドイモイの再評価(坂田正三) ◆エチオピアのコーヒー流通におけるオークションの役割—政府による競争の場の提供と価格情報の伝達(児玉由佳) ◆ガーナのココア流通制度の変遷(1885~2000年)(高根務) ◆中部ジャワの米生産地域における流通市場と米商人—ヨグヤカルタ, セイエガン郡の事例研究(米倉等/ジャムハリ) ◆ミャンマーにお

ける農産物流通自由化と農家経済—リョクトウ産地の事例から(岡本郁子) ◆タンザニア・メル山麓の半乾燥平原における食糧作物流通の広域化と商業的灌漑運用の進展(上田元)

■武内進一編『国家・暴力・政治—アジア・アフリカの紛争をめぐって—』No.534, 2003年

アジア・アフリカの紛争をどう捉えるか(武内進一) ◆インド北東地方の紛争—多言語・多民族・辺境地域の苦悩(井上恭子) ◆カシミール—分割されざる溪谷(井上あえか) ◆カンボジアの人種主義—ベトナム人住民虐殺事件をめぐり一考察(天川直子) ◆ラオス内戦下の国民統合過程—パテート・ラーオの民族政策と「国民」概念の変遷(山田紀彦) ◆紛争の正当化が国民統合に与える影響—イラクにおけるナショナリズムの方向と「敵」概念の変容(酒井啓子) ◆リコニ事件再考—ケニア・コースト州における先住性の政治化と複数政党制選挙(津田みわ) ◆新生南アフリカにおける「紛争」の様式—再生産される「暴力の文化」(遠藤貢) ◆ブタレの虐殺—ルワンダのジェノサイドと「普通の人々」(武内進一) ◆シエラレオネ紛争における一般市民への残酷な暴力の解剖学—国家, 社会, 精神性(落合雅彦) ◆スリランカにおける二大政党制と暴力—1987~89年人民解放戦線(JVP)反乱深刻化の背景(荒井悦代) ◆南部フィリピン紛争と市民社会の平和運動—2000年の民間人虐殺事件をめぐって(川島緑) ◆カザフスタンにおける民族運動の翼賛化—予想された紛争はなぜ起きなかったのか(岡奈津子)

〔調査研究報告書〕

■高根務編『開発途上国の農産物流通—アフリカとアジアの経験—』2002年

農産物流通市場の効率性に関する分析—インドネシアの事例(米倉等) ◆インドにおける青果物流通—デリー・アーザードプル市場データの解題(黒崎卓・荒木一視) ◆ミャンマーにおける農産物流通自由化政策と農家の反応—予備的考察(岡本郁子) ◆中国における食糧流通政策の変遷と農家経営への影響(寶劍久俊) ◆ベトナム・ドイモイ下のコメ流通(坂田正三) ◆ザンビアにおけるトウモロコシ流通自由化による流通と価格の変化(児玉谷史朗) ◆独立期ガーナのココア流通—マーケティングボードの政治経済学(高根務) ◆東アフリカ小農社会のモラル・エコノ

ミーをめぐる緒論——タンザニア・メル山周辺の新開地社会における農耕と流通の実態把握に向けて（上田元）◆コーヒー国際市場とアフリカにおけるコーヒー流通——エチオピア、タンザニア、ケニアの事例（児玉由佳）

■武内進一編『アジア・アフリカの武力紛争—共同研究会中間成果報告—』2002年

「第三世界の紛争と国家」研究会の射程（武内進一）◆南部アフリカにおける紛争、政治暴力、犯罪（遠藤貢）◆諸紛争におけるパターン抽出の試み——イラク現代史における抗国家紛争を事例として（酒井啓子）◆カシミール問題の現状——武装闘争の発生と変容（井上あえか）◆インド北東地方——言語をめぐる状況（井上恭子）◆南部フィリピンの紛争——2000年ミンダナオ危機と平和運動（川島緑）◆カンボジアの紛争——「ポル・ポト問題」の一般化に向けての試論（天川直子）◆止められなかった紛争——1998年～2000年におけるアチェ紛争激化の展開と構造（西芳実）◆シエラレオネ紛争関連年表（落合雄彦）◆ケニア政治史資料（1998～2000）（津田みわ）◆資料——1960年代のコンゴ東部反乱とルワンダ系住民（武内進一）◆スリランカ紛争史年表（荒井悦代）◆ラオス内戦史資料（1954～1975）（山田紀彦）

■平野克己編『アフリカ経済論再構築に向けて』2002年

総論（平野克己）◆経済成長理論の展開とアフリカ経済（山形辰史）◆アフリカ諸国における低成長の要因——近年における実証研究のレビュー（福西隆弘）◆アフリカ企業研究の推移と課題（西浦昭雄）◆労働移動研究とアフリカ——サーベイと展望（赤林英夫）◆土地豊富経済の制約と可能性——アフリカ経済論の一課題（峯陽一）◆個人と全体の二項対立をどう越えるか——アフリカ経済論再構築の一助として（高橋基樹）◆債務削減の経済学（中村亨）◆アフリカ諸国の貿易構造の基礎的解析——SADC 3カ国の商品別貿易の分析を中心に（須藤裕之）◆技術革新と特許とエイズ（山形辰史）

『アジアワールド・トレンド』特集

■「国民和解」：圧政・内戦・虐殺を超えて（第82号、2002年7月）

「国民和解」現象を考える（武内進一）◆中米／三つ

の内戦、三つの「和解」（飯島みどり）◆ペルー／真実と正義と忘却の間で（大串和雄）◆ウルグアイ／当事者不在の「和解」？（内田みどり）◆チリ／国民和解政策の展開と現段階（吉田秀穂）◆南アフリカ／「真実と和解」から「正義と和解」へ（永原陽子）◆コートディヴォワール／「和解フォーラム」後の課題（佐藤章）◆ルワンダ／裁判を通じた「国民和解」（武内進一）◆カンボジア／ポルポト時代の死の記憶をいかに処理するか（天川直子）◆東ティモール／「多元的和解」という課題（古沢希代子）

■アフリカ経済学宣言（第93号、2003年6月）

特集にあたって（平野克己）◆アフリカ諸国の経済成長——なぜ成長から取り残されているのか（福西隆弘）◆アフリカの小農——開発ミクロ経済学からみた農家行動（福西隆弘）◆アフリカ国家論と新政治経済学（高橋基樹）◆人間開発からみたアフリカ（野上裕生）◆債務削減の経済学——重債務貧困国イニシアチブの有効性（中村亨）◆アフリカ企業研究の新展開——南アフリカ・財閥のガバナンス（西浦昭雄）◆HIV／エイズの経済学——医療品特許の功罪（山形辰史）

■アジア・アフリカの紛争をめぐる（第94号、2003年7月）

アジア・アフリカの紛争を捉える視角（武内進一）◆カシミール／終わらない分離独立過程（井上あえか）◆カンボジア／ベトナム住民虐殺事件を検討する（天川直子）◆インド北東地方／多言語・多民族・辺境の苦悩（井上恭子）◆ラオス／内戦下の国民統合過程——パテート・ラーオの役割（山田紀彦）◆イラク／戦争と内紛と薄明かりのナショナリズム（酒井啓子）◆ケニア／つくられる「よそ者」——コースト州リコニ事件から（津田みわ）◆南アフリカ／再生産される「暴力の文化」（遠藤貢）◆ルワンダ／虐殺と「普通の人々」（武内進一）◆シエラレオネ／民間人への暴力の心性とラストファリアン（落合雄彦）◆スリランカ／二大政党制と暴力（荒井悦代）◆南部フィリピン／2000年民間人虐殺事件と市民社会の対応（川島緑）◆カザフスタン／民族運動の抑圧と懐柔（岡奈津子）

アジ研アフリカ研究者による上記以外の所内著作

■児玉由佳

「エチオピア——対エリトリア国境紛争終結後の政局と今後の課題」（『アフリカレポート』No.33, 2001年）。

「困ったときには『ぼっぼ』を使え」(『アジア研ワールド・トレンド』第84号, 2002年)。

「経済自由化で新たな試練に直面するコーヒー生産者たち」(『アフリカレポート』No.36, 2003年)。

■佐藤章

「第二共和制の不安な船出——コートディヴォワールにおける民政移管と排外主義」(『アフリカレポート』No.32, 2001年)。

「コートディヴォワール——『病める地域大国』の政治課題」(『アジア研ワールド・トレンド』第75号, 2001年)。

「『巨大な唾者』の反乱——コートディヴォワールの軍隊改革」(『アフリカレポート』No.34, 2002年)。

「コートディヴォワール／『イスラーム教徒』に出会うことはできるか」(『アジア研ワールド・トレンド』第85号, 2002年)。

「コートディヴォワール内戦の軍事的側面」(『アフリカレポート』No.36, 2003年)。

「コートディヴォワールの国民和解フォーラム——和解の成果と今後の課題」(『アジア経済』第43巻第5号, 2002年)。

(共著) *Inventaire de l'enseignement supérieur en Côte d'Ivoire*, Africa Research Series No.8, 2003.

(共著) *L'administration locale en Côte d'Ivoire*, Africa Research Series No.10, 2003.

■高根務

「書評: Richard A. Schroeder, *Shady Practices: Agroforestry and Gender Politics in the Gambia*」(『アジア経済』第42巻第6号, 2001年)。

「2000年ガーナ総選挙——長期政権の平和的交代」(『アフリカレポート』No.32, 2001年)。

「書評: Thomas J. Bassett, *The Peasant Cotton Revolution in West Africa: Côte d'Ivoire, 1880-1995*」(『アジア経済』第43巻第1号, 2002年)。

「書評: Ann B. Stahl, *Making History in Banda: Anthropological Visions of Africa's Past*」(『アジア経済』第43巻第9号, 2002年)。

「植民地ゴールドコーストにおけるココア不売運動」(『アフリカレポート』No.34, 2002年)。

「<私の研究資料>アフリカ」(『アジア研ワールド・トレンド』第90号, 2003年)。

『ガーナ——混乱と希望の国』アジアを見る眼

No.104, 2003年

“Book Review: Richard A. Schroeder, *Shady Practices: Agroforestry and Gender Politics in the Gambia*,” *Developing Economies*, Vol.39, No.3, 2001.
The Cocoa Farmers of Southern Ghana: Incentives, Institutions and Change in Rural West Africa, Occasional Papers Series No.37, 2002.

■武内進一

「『紛争ダイヤモンド』問題の論じられ方——グローバル・イシューの陥穽」(『アジア研ワールド・トレンド』第69号, 2001年)。

「正義と和解の実験——ルワンダにおけるガチャチャの試み」(『アフリカレポート』No.34, 2002年)。

「オコモのナベ」(『アジア研ワールド・トレンド』第79号, 2002年)。

「国際シンポジウム『アフリカの「難民問題」を考える』」に出席して」(『アフリカレポート』No. 36, 2003年)。

「ウォーロードたちの和平——コンゴ紛争の新局面」(『アフリカレポート』No.37, 2003年)。

「難民帰還と土地問題——内戦後ルワンダの農村変容」(『アジア経済』第44巻第5-6号, 2003年)。

「書評: Johan Pottier, *Re-Imagining Rwanda: Conflict, Survival and Disinformation in the Late Twentieth Century*」(『アジア経済』第44巻第9号, 2003年)。

■津田みわ

「ケニア憲法改革問題の現在——『サファリ・パーク合意』とガイ調停」(『アフリカレポート』No.32, 2001年)。

「2002年大統領選挙に向かうケニア——連立政権の発足と日本の援助」(『アフリカレポート』No. 33, 2001年)。

「<私の研究資料>アフリカ」(『アジア研ワールド・トレンド』第90号, 2003年)。

「2002年ケニア総選挙——モイの引退と新政権の誕生」(『アフリカレポート』No.36, 2003年)。

■平野克己

「南アフリカの自由民主主義とその政策」(佐藤幸人編『新興民主主義国の経済・社会政策』研究双書No.516, 2001年)。

「アフリカ農業の国際比較」(『アフリカレポート』No.33, 2001年)。

「カナナスクス・サミットはなぜアフリカについて話合ったのか」(『アフリカレポート』No.35, 2002年)。

「<私の研究資料>アフリカ」(『アジア研ワールド・トレンド』第90号, 2003年)。

「アフリカの貧困と戦うために」(『アジア研ワールド・トレンド』第99号, 2003年)。

(共編著) *Globalization Carried on Human Feet*, IDE Spot Survey No.27, 2003.

“Extension Services for Equitable Growth: The Green Revolution in Sub-Saharan Africa,” in Katsumi Hirano and Hiroshi K. Sato eds., *Globalization Carried on Human Feet*, IDE Spot Survey No.27, 2003.

■ 牧野久美子

「南アフリカ」(村上薫編『発展途上国における女性労働と社会政策』調査研究報告書, 2001年)。

「ベーシック・インカム・グラントをめぐる——南アフリカ社会保障制度改革の選択肢」(『アフリカレポート』No.34, 2002年)。

「南アフリカ/家内労働者と社会政策改革——アフリカ人メイドの生活は民主化で変わったか?」(『アジア研ワールド・トレンド』第84号, 2002年)。

『グローバル・アパルトヘイト』——サミット開催国の外交と内政のジレンマ」(『アジア研ワールド・トレンド』第88号, 2003年)。

「連載資料『後発工業国における女性労働と社会政策』第6回 南アフリカ」(『アジア経済』第44巻第1号, 2003年)。

■ 望月克哉

「ナイジェリア——任期後半をむかえるオバサンジョ政権」(『アフリカレポート』No.32, 2001年)。

「ナイジェリア——住民衝突と『青年』層」(『アフリカレポート』No.34, 2002年)。

「アフリカ首脳にとってのジョハネスバーグ・サミット」(『アジア研ワールド・トレンド』第88号, 2003年)。

「バカシ半島領有問題をめぐるナイジェリア、カメルーン交渉」(『アフリカレポート』No.36, 2003年)。

「ナイジェリア総選挙と独立国家選挙委員会」(『アフリカレポート』No.37, 2003年)。

「ナイジェリア/産油国のジレンマ——資源がもたらす富と混乱」(『アジア研ワールド・トレンド』第97号,

2003年)。

「研究機関紹介 北欧アフリカ研究所:NAI」(『アジア経済』第44巻第10号, 2003年)。

(編著) *Emergent Actors in African Political Economy*, Africa Research Series No.9, 2003.

■ 吉田栄一

「アフリカ都市の集積と崩壊——紛エリート都市から大衆の都市へ」(『アジア研ワールド・トレンド』第76号, 2002年)。

「ウガンダ軍のコンゴ派兵とその資源収奪について——紛争地資源のつくるコモディティチェーン」(『アフリカレポート』No.36, 2003年)。

編集後記

毎年のことだが慌ただしい年度末を過ごしている。独立行政法人になって初の締めであり、各部署勝手に分らない。

TICAD III のこともあって今年度もまためまぐるしい日々を過ごしたが、「なぜ自分はアフリカについて勉強しているのか」という問いと改めて向き合う一年であった。大来賞の授賞式では「自分は好きだからアフリカをやっているのではない。むしろ、アフリカは嫌いである。私は使命感でアフリカと格闘しています」と申し上げた。これほどの低開発と貧困を相手にする苦痛は、年々重くのし掛かってくる。ささやかな休暇に恵まれたら山奥の温泉にでも浸かって、来し方行く末に想いを馳せようか。(平野記)

アフリカレポート 第38号

編集・発行

独立行政法人日本貿易振興機構

アジア経済研究所

編集

『アフリカレポート』編集委員会

E-Mail : africa@ide.go.jp

発行

研究支援部

〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉3-2-2

TEL 043-299-9735 FAX 043-299-9736

E-Mail syuppan@ide.go.jp

2004年3月31日発行

定価735円(本体700円)
